

4. 文化財としての価値

旧高岡共立銀行は、山町筋伝統的建造物群保存地区の土蔵造りの町並みのなかで、赤煉瓦の外観意匠がひととき目を惹く、大正期の本格的洋風建築である。

「辰野式」と称される北棟のクラシックな外観意匠は、日本近代建築の父と呼ばれる辰野金吾の作風を、設計者である田辺淳吉が忠実に受け継いだものである。大正3（1914）年に竣工したこの建物は、鉄骨煉瓦造の2階建て、小口貼の赤い化粧煉瓦と、玄関や窓まわり、蛇腹、隅石等に配された白い花崗岩、そして緑青をふいた銅板葺屋根の色彩の対比が、土蔵造りの町並みの景観に華やかなアクセントを添えている。正面に張り出した玄関ポーチは、破風と胴張りをもつ2本の円柱を備え、1・2階を貫く柱型、尖塔を冠した両端の塔屋など、全体を端正にまとめている。内部は、当時の銀行建築の定型にならい、2階に回廊をめぐらせた吹き抜け空間と、漆喰塗りのジャイアントオーダー、そして舶来の工法で当時は珍しかった金属天井を全面に用い、薄雲の白と蛇紋岩の緑の2色の大理石貼の腰壁やカウンターなど、上質で贅沢な空間が創出されていた。2階会議室には、噴水の図柄がデザインされたステンドグラスや、漆喰で仕上げられた装飾天井も残り、大正期の優雅な意匠性を現代に伝えている。北棟の建築材料には、大阪窯業製の化粧煉瓦や、北木石と呼ばれる岡山県北木島産の花崗岩など、遠方から運ばれたものも含まれ、当時における交通網の発達という時代背景も物語る。

大正15（1926）年に増築された南棟は、大友弘による設計である。鉄筋コンクリート造の3階建て、小さな中庭を囲むよう、コの字形に北棟へ接続されている。側面道路に面する東面の外観意匠を北棟に揃え、小口貼の赤いせつ器タイルと、玄関や窓まわりに用いられた白みがかった擬石塗が、両者の連続性を強調している。内部の意匠は控えめだが、結霜ガラス入の木製建具など、当初の部材が多く残る。

このように辰野から田辺へ、さらに大友へと、当時の日本を代表する建築家・設計者らの手によって、日本の近代に誕生した銀行建築の様式やビ

ルディングタイプが着実に継承されていったことを、旧高岡共立銀行の建物にみることができる。

その一方で、構造的観点に基づけば、北棟の煉瓦壁内に挿入された鉄骨や、今回の調査で初めて明らかになった目地内の山形金網、セメントの使用など、煉瓦造建築を補強する幾つかの特徴的な工法と材料を確認することができる。これらは、我が国が明治期に西洋から煉瓦造建築を導入した後、明治24（1891）年の濃尾地震によって甚大な被害を受け、耐震性向上が喫緊の課題となっていた時代における、技術的改良の過程を示すものである。さらに、大正12（1923）年の関東大震災後に設計された南棟では、丸鋼鉄筋を用いた鉄筋コンクリート造が採用されており、再び大災害から教訓を得た熟慮と工法の選択があったことを伝えている。

これらは当時、海外の最先端技術に学びながら、試行と応用を急いだ技術者たちの弛まぬ努力と、近代建築技術が日本の土地に根付いていくまでの習熟の歴史を刻む、数少ない物証といえる。さらに、それが旧高岡共立銀行の建物として残るだけでなく、清水建設が所蔵する北棟及び南棟の詳細な設計図書（意匠図・構造図）一式としても保存されていることは特筆に値し、今後のさらなる調査研究によって、新たな価値の発見に繋がることも期待される。

以上のように、旧高岡共立銀行は、高岡開町時からの歴史あるその場所性ととも、北棟及び南棟それぞれの近代銀行建築としての建築史的・意匠的価値と、明治中期から我が国の建築界が正面から向き合い、国家規模で取り組んだ煉瓦造建築の耐震性向上を目指す技術的変遷の過程を示す物証としての技術史的・史料的価値、さらに、保存地区の一角で際立った存在感を誇る景観的価値、また、その煉瓦塀が物語る大火からの復興としての歴史的価値など、文化財としての多様な価値を有する。創建から複数の所有者の手にわたり、銀行として使い続けられたことで、北棟の吹き抜け空間が新設の天井で塞がれるなど、その内装には幾度かの大規模な改修が施されてきたものの、当初の躯体や部材の大部分は現代に至るまで、比較的良好な状態で保存されてきた。太

平洋戦争中の空襲で富山市内の多くの建物が焼失した一方で、これを免れた高岡に残る歴史的建造物は、富山県内でも貴重な存在であり、今では県内唯一となった本格的洋風建築としての希少性も強調される。大正から令和に至るまで、北陸地方を代表する近代銀行の役割を担い続けてきたことも評価され、それゆえに、地域のシンボルともなってきた。

これらの多様な文化財的価値を損なうことなく、今後は、地元住民をはじめ高岡を訪れる多くの来訪者を受け入れる拠点となるよう、活用の面からも新たな価値の創出を目指す。

5. 保護の履歴

(1) 保存事業履歴

対象施設に係る保存や改造の履歴は、「主な改造時期とその内容」に示した通りである。

(2) 活用履歴

対象施設は創建以来、銀行の店舗として使用される傍ら、富山銀行が所有していた際には、店内でのミニコンサート開催や小学生向けの金融経済教室、夏休み銀行探検隊、職場体験等の受入れなど、地域活動にも貢献してきた。

なお、高岡市による土地及び建物取得後は、耐震性能について懸念があったため、現在までに主だった公開活用はなされていない。

6. 保護の現状と課題

北棟の屋根は竣工当時、天然スレート葺であったが、その後の改修工事によって銅板葺に葺替えられている。これ以外の外観は、創建当時の形態及び仕様をおおむね残している。

南棟に関しては、設計図に示された外観仕上が一部異なる部分も見受けられるが、およそ当初の意匠をとどめている。

躯体については、一部に間取りの改変があり、南棟を北棟に接続した際、開口部周りにも一部改変が加えられているが、その他は、およそ当初の形態を残している。

破損状況については第2章で詳述するが、北棟の複雑な屋根形状や軒蛇腹などの装飾が原因となり、吹き抜け空間では雨漏りが著しく、特に積雪時

は適切な排水対策が求められる。外壁面では、当初の化粧煉瓦仕上が残るが、部分的に浮きが著しく、花崗岩の塩類風化も進んでいることから、外部仕上の適切な処置が必要である。

南棟については、モルタル仕上の浮きやひび割れ、剥離等が確認され、特に窓まわりでは、コンクリート躯体の爆裂が著しい箇所がある。これらは雨水の侵入経路となっていることから、早急な対策が求められる。

室内については、北棟・南棟とも大きな改変が加えられている箇所がある。特に北棟の営業室に関しては、数度の改変がなされ、天井が下げられ、室内の意匠も大幅に変更されていることから、かつての吹き抜け空間を実感することは現状では難しい。しかしながら、調査の結果、後補材や現状の仕上材によって隠蔽された部分に、当初部材や仕様が残されていることも、今回、明らかとなった。

また、平成10(1998)年の富山銀行時代の内装改修図面に、創建当初の大理石製カウンターが永久保存された記述があるが(章末資料、p.32 下部参照)、その所在は現段階では不明である。

創建からおおよそ100年が経過し、至るところで経年劣化が目立つが、直近まで富山銀行本店として維持管理されてきたため、室内の状態は比較的良好である。

7. 計画の概要

(1) 計画区域 (図 1-07)

本計画区域は、高岡市守山町 20 番1 (北棟及び南棟が建つ 1,060.90 m²)、高岡市一番町6番1 (空地 886.35 m²) の敷地の範囲とする。

(2) 計画の目的

今後、建造物の保存及び文化財的価値を損なわず円滑な活用を図るため、保存活用計画を策定する。

(3) 基本方針・計画の概要

ア 地域の位置付け

旧北陸街道沿いに位置する山町筋伝統的建造物群保存地区は、江戸時代から近代までの高岡のメインストリートであり、各時代の特徴を示す建造物が残り、高岡市内でも主要な観光地として位置付けられている。

イ 当該施設の位置付け

旧高岡共立銀行は、現在は富山県内に現存する唯一の本格的西洋建築であり、土蔵造りの町家が建ち並ぶ山町筋では、その存在感が際立っている。

建造物と一番町の計画区域も含め、市民をはじめ観光客にとっても魅力的なコンテンツを創出することで、保存地区内の公開施設の核となることを目指す。

ウ 活用における基本方針

活用内容は、地域住民・民間事業者・行政が一体となって検討する。民間事業者とは公募条件やリスク分担等について対話を行い、事業化を目指す。

北棟は営業室の吹抜空間の魅力や会議室(大)や会議室(小)にみられる創建当初のしつらえを最大限に活かし、南棟は既存の部屋割りに応じた活用を検討する。

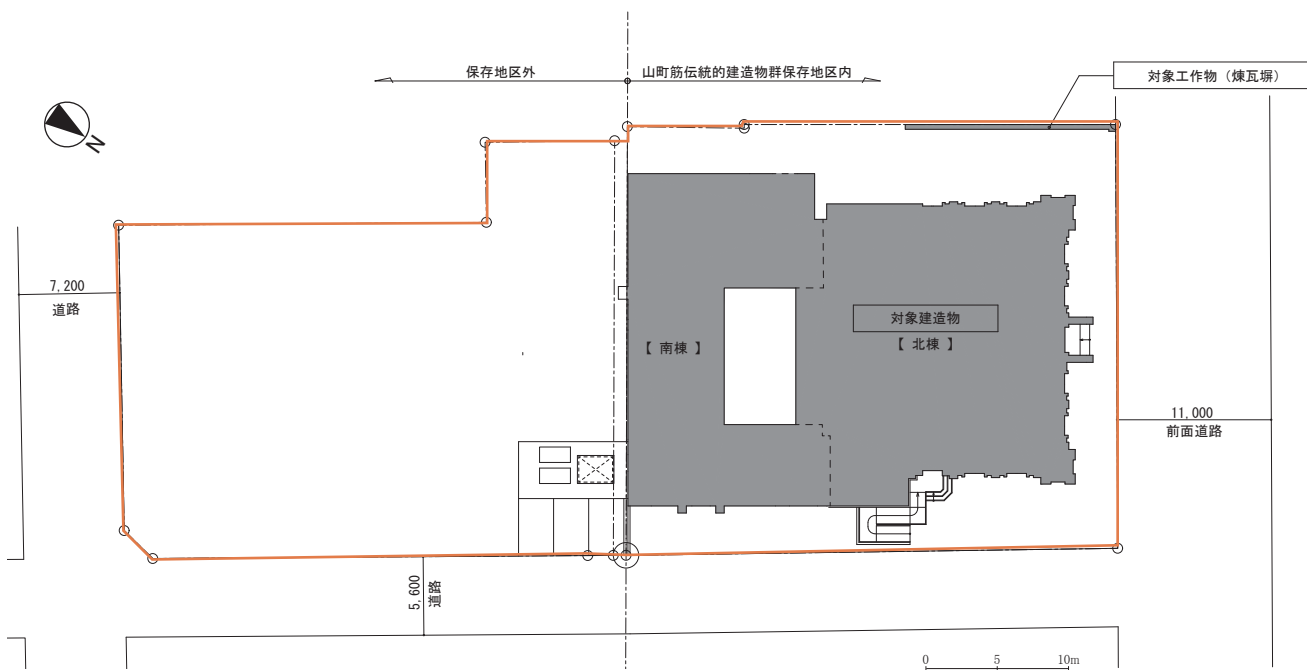


図 1-07 計画区域図

【参考文献】

- ・株式会社富山銀行「富山銀行 60 年史」2015
- ・高岡市史編纂委員会「(三) 経済」『高岡市史下巻』1969, p 471-577
- ・富山金融歴史資料館 (ほくぎん歴史ミュージアム) 展示解説
- ・岡田 俊平「商法司・通商司による通貨供給政策」成城大学経済研究 (18), 73-93, 1963-11
- ・鎮目 雅人「日本における近代信用貨幣への移行: 国立銀行を中心に」WINPEC Working Paper Series No. J1905, November 2019
- ・お札と切手の博物館 <https://www.npb.go.jp/ja/museum/tenji/gallery/dajoukan.html>
- ・国立公文書館 http://www.archives.go.jp/exhibition/digital/modean_state/index.html
- ・日本銀行百年史 <https://www.boj.or.jp/about/outline/history/hyakunen/hyaku1.htm/>
- ・北陸銀行 <https://www.hokugin.co.jp/company/index.html>

章末資料1 高岡共立銀行の建設時、南棟の増築、その後の改変等に関する写真及び史料



木舟町から守山町（大正初期）

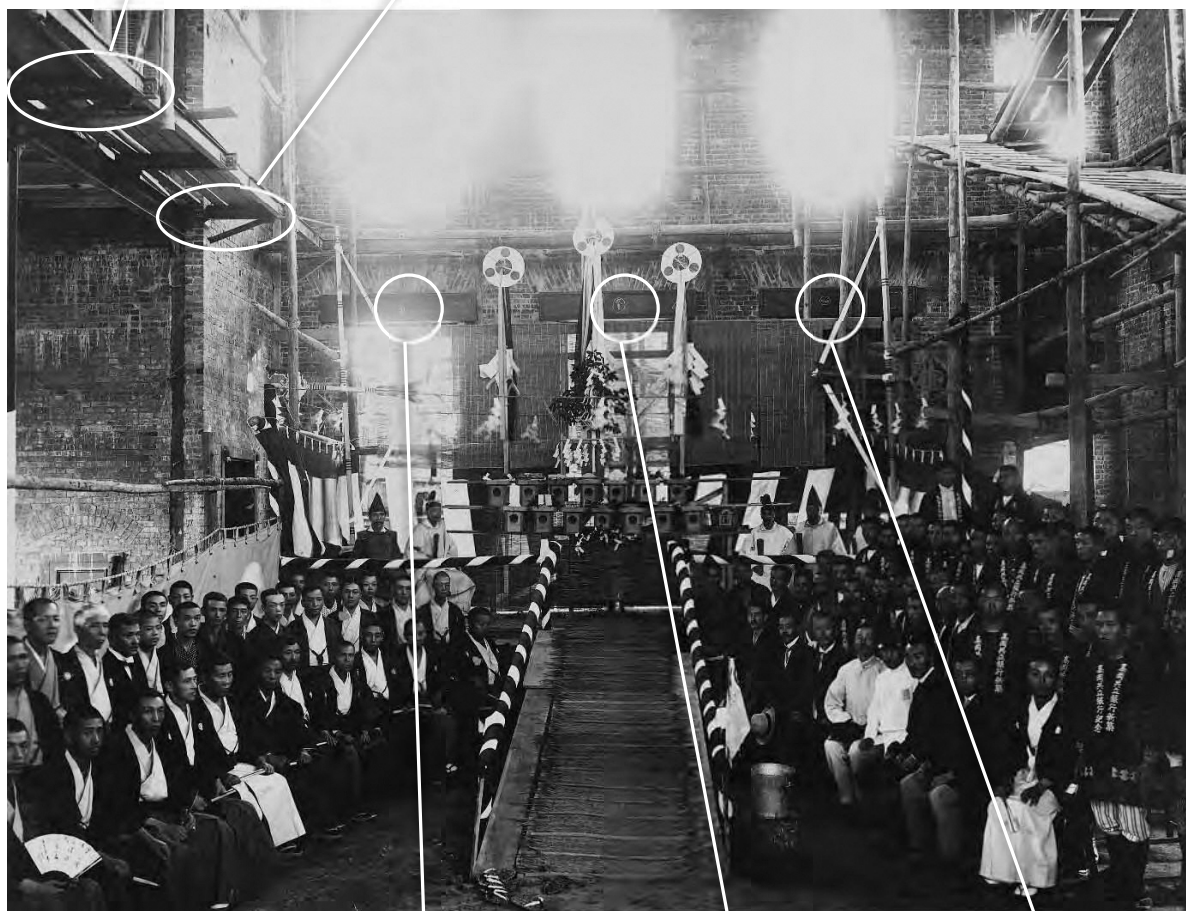


守山町通り（大正初期） 左手に高岡共立銀行（北棟）がみえる

「拾九■付き」



「一七■付き」



「一番」



「貳番」



「三番」

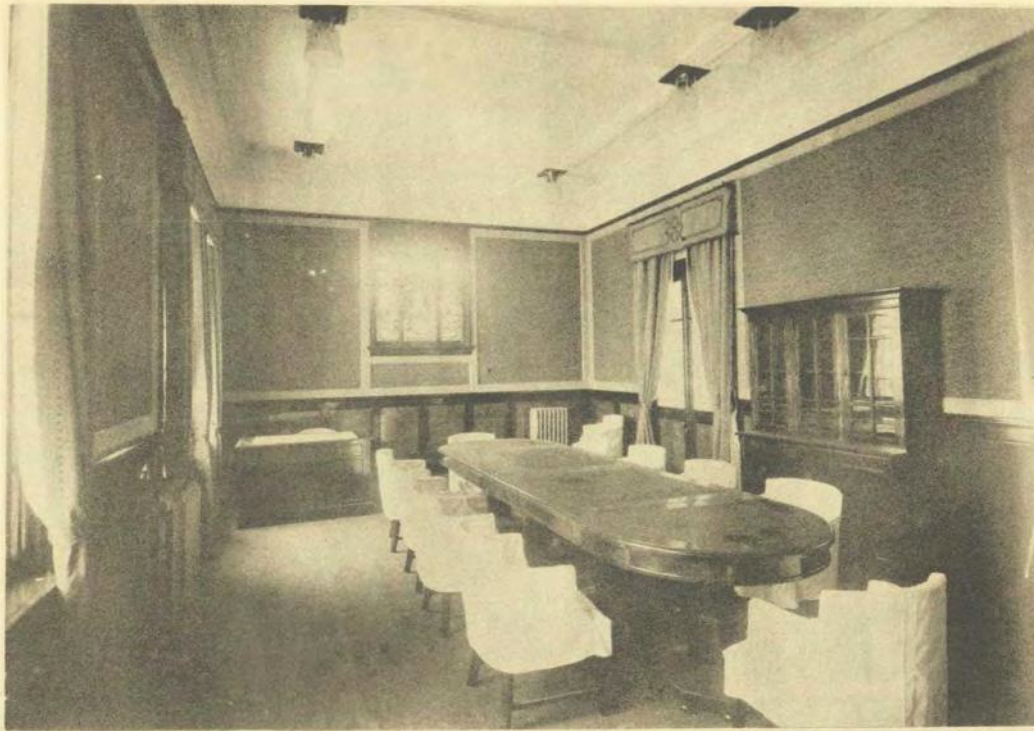
高岡共立銀行上棟式の写真にみる番付（清水建設所蔵資料をもとに作成）



高岡共立銀行外觀写真（清水建設所蔵）



高岡共立銀行營業室內觀写真（清水建設所蔵）



株式會社高岡共立銀行會議室

高岡共立銀行會議室內觀写真（清水建設所蔵）

番 號	No. 46.	No. 47.	No. 48.	No. 49.	No. 50.
名 稱	株百行 式三橋 會十支 社銀 社行店	株石動 式會社 中越銀 行店	株東神 式京貯 會田蓄 會銀 社行店	株高岡 式共立 會銀 社行	株千葉 式縣農 會工銀 行社
位 置	福岡縣京都郡行橋町	富山縣西礪波郡石動町	東京市神田區佐柄木町	高岡市守山町	千葉縣千葉郡千葉町
建 坪	本 館 二階建 (全部延) 地 47.5	二階建 地 36.1 72.2	二階建 地 34.7 69.4	二階建 地 108.8 210.2	二階建 地 111.5 218.2
	附 屬 家 全 (平家) 延 23.1	平 家 (全) 延 3.6	全 (平家) 延 41.7	平 家 (兩層) 延 42.0	
本館建築費(階別)(坪二付)					
起 工	大正三年三月	大正三年五月	大正三年五月	大正二年九月	大正二年十二月
竣 工	大正三年十一月	大正三年十二月	大正三年十二月	大正三年十二月	大正三年十二月
本 館 構 造	地 形 杭打コンクリート地形	杭打コンクリート地形	杭打コンクリート地形	割栗コンクリート地形	杭打コンクリート地形
	外 壁 煉瓦積柱型及腰人造石塗	煉瓦積化粧貼付	木骨貼付煉瓦及鐵網コンクリートモルタル塗	鐵骨煉瓦積化粧貼付	煉瓦積化粧貼付
	床 木造、コンクリート叩き人造石及アスファルト塗	木造及コンクリート叩き人造石磨出し叩き	木造及コンクリート叩き化粧石塗	木造及コンクリート叩き化粧石塗	木造及コンクリート叩き化粧石塗
	屋 根 小屋木造、スレート葺	小屋木造、スレート及亜鉛引鐵板葺	小屋木造、スレート及亜鉛引鐵板葺	鐵小屋、スレート及鐵板葺	小屋木造、スレート及亜鉛引鐵板葺
	造 作 鹽地杉材ワニス及ペンキ塗	鹽地杉材ペンキ及ワニス塗	木部ペンキ及ワニス塗	鐵欄材ペンキ及ワニス塗	鹽地杉材ワニス及ペンキ塗
其 他	表入口シャッター取付	各入口窓シャッター及防火鐵戸付	側面窓防火鐵戸付	各入口窓シャッター取付 温水式暖房設備	表裏入口シャッター取付
頁 數	88—89	90	91	92—95	96—97

銀行建築概要一覽（清水建設所蔵）

卷末附圖説明

○高岡共立銀行本店新築工事概要

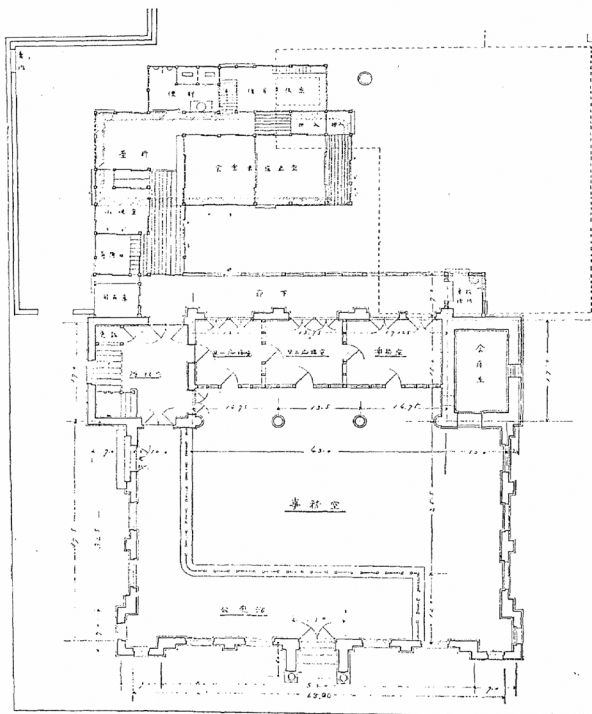
所在地 富山縣高岡市守山町二十二番地
 坪 本館Ⅱ二階建にして外法百〇九坪七合二勺、車寄
 Ⅱ一坪八合八勺、附屬廊下及重役便所Ⅱ十坪八合六勺
 附屬日本家移築新築共Ⅱ三十一坪八合
 本館高 サ 避雷針上端迄五十八尺九寸 軒樋上端迄三十六尺
 九寸
 本館諸室の配置 主階Ⅰ金庫、營業場、公衆溜、階段室、重役室、第
 一應接室、第二應接室、第二階Ⅰ客室、會議室、其他
 吹抜き、第三階Ⅰ豫備室
 工事日 數 大正二年九月一日起工
 設計並に設計者 工學士 田邊淳吉
 工事請負工事請負者 清水組京都支店
 左の室内諸設備は清水組設計監督のもとに左の諸商店の製作にかゝ
 る
 暖房設備(大阪暖房商會) 電燈設備(東京秋山小林商店)
 装飾(東京會和商店) 家具(東京清水米吉商店)
 構造概要基礎 基礎地盤は緻密なる固き砂層にして地面より十一尺
 卷末附圖説明

卷末附圖説明

防火及暖房装置 窓入口には全部大野式「シャッター」を取付け暖房
 は温水式放熱器を以てす

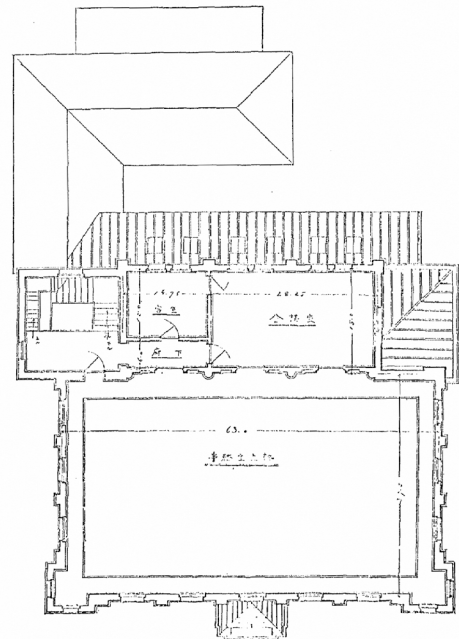
壁及屋根 掘り下げ「コンクリート」割栗地形とす
 壁は補強式鐵骨煉瓦造にして標準壁厚一尺二寸と
 す外部には大阪鐵業會社製裝飾煉瓦を貼付け北木産花
 崗石を使用す正面昇降口は總體花崗石とす、屋根鐵骨
 造「スレート」葺き屋上「スレート」以外の部分は總て銅
 板とす
 床及階段 二階、階段室同廊下は「鐵筋コンクリート」公衆室
 は服部製紙出し敷瓦とし其他は板張り「リノリウム」敷
 とす、階段は鐵製にして段端には「ゴム」入り金具を取
 付く
 天井 井事務室公衆室吹抜天井及び重役室、應接室は金屬
 打出し天井とし其他は漆喰塗とす
 室内木部 昇降口廻り木部は樺材其他は總體草檜材を使用し
 階上客室及會議室は「ラック」最上塗其他は「ワニス」及
 「ペンキ」塗とす
 營業臺 營業臺甲板は長州產薄雲大理石を使用し腰羽目は
 公衆室壁際共總大理石にして薄雲石及蛇紋石を使用す
 出納方「スクリーン」は金屬製とす
 金庫 天井は「鐵筋コンクリート」床は防水層入り「コン
 クリート」とし入口及窓は東京竹内製重扉とす
 五六七

『建築雑誌』(1916年357号)より 高岡共立銀行本店新築工事概要(567-568)



階下平面図

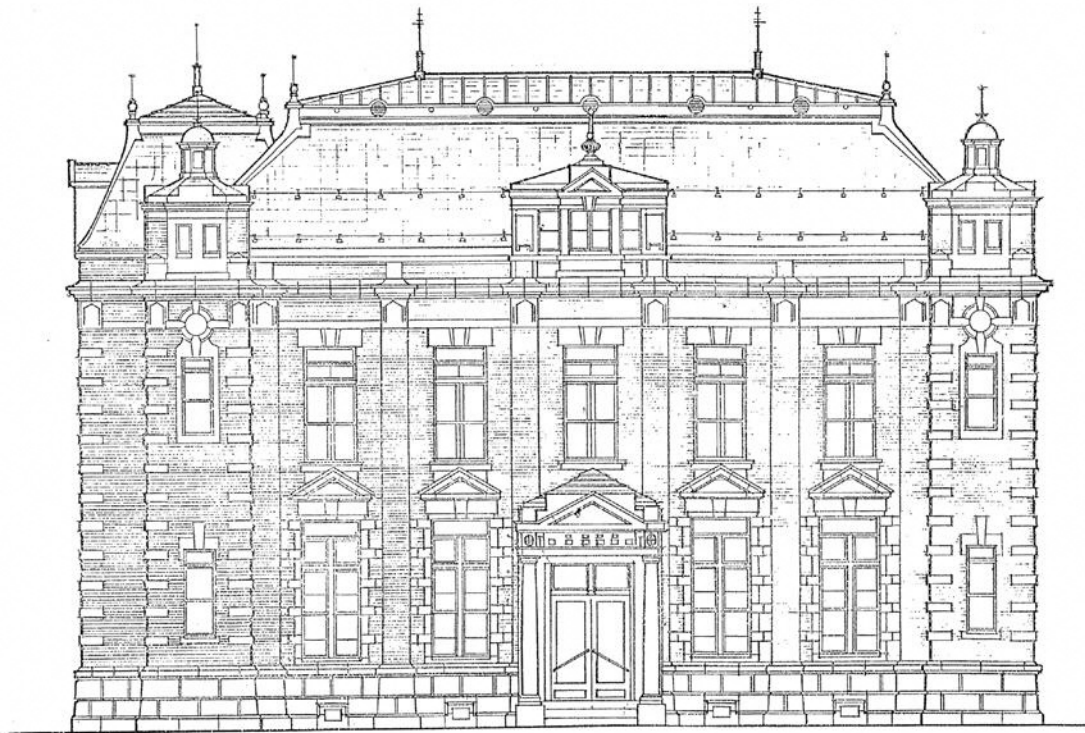
高岡共立銀行



階上平面図

設計 正員 工學士 川邊淳吉君

『建築雑誌』(1916年357号) 巻末付図より 高岡共立銀行本店 平面図

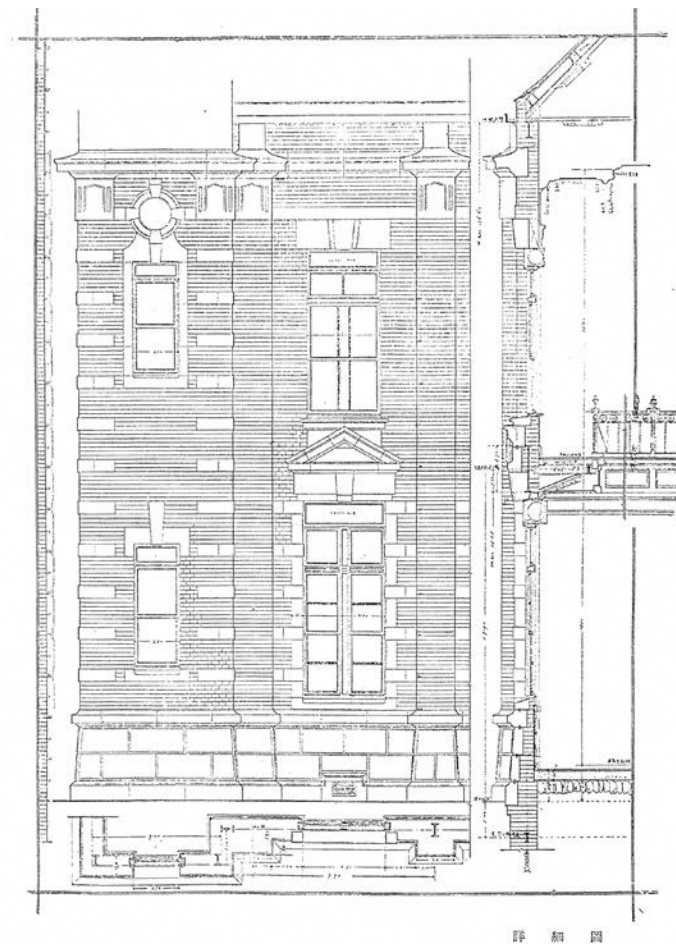


正面図

高岡共立銀行

設計 正員 工學士 川邊淳吉君

『建築雑誌』(1916年357号) 巻末付図より 高岡共立銀行本店 正面図



詳細図

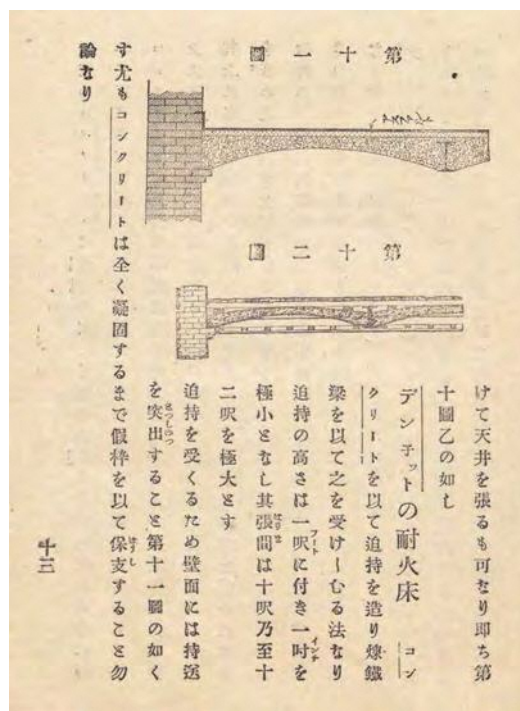
高岡共立銀行

設計 正員 工學士 岡邊 淳吉君

『建築雑誌』（1916 年 357 号）巻末付図より 高岡共立銀行本店 詳細図



北棟金庫室 2 階の耐火天井



【参考】中村達太郎 編『建築學階梯 續篇』（1901）に紹介された「デンチットの耐火床」



北棟の煉瓦壁コア抜き調査で確認された山形金網
(清水建設・日本診断設計・ジャスト)



コア抜き位置（北棟1階階段室）
（清水建設・日本診断設計・ジャスト）

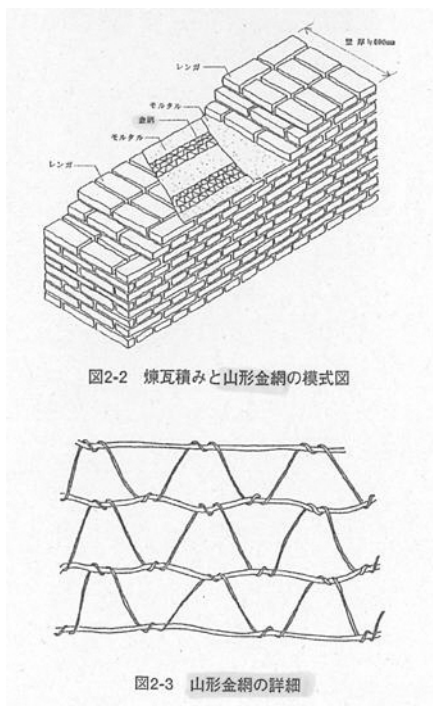


図2-2 煉瓦積みと山形金網の模式図

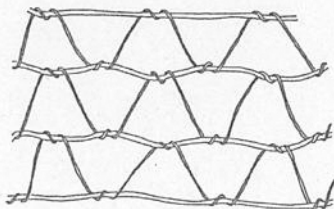
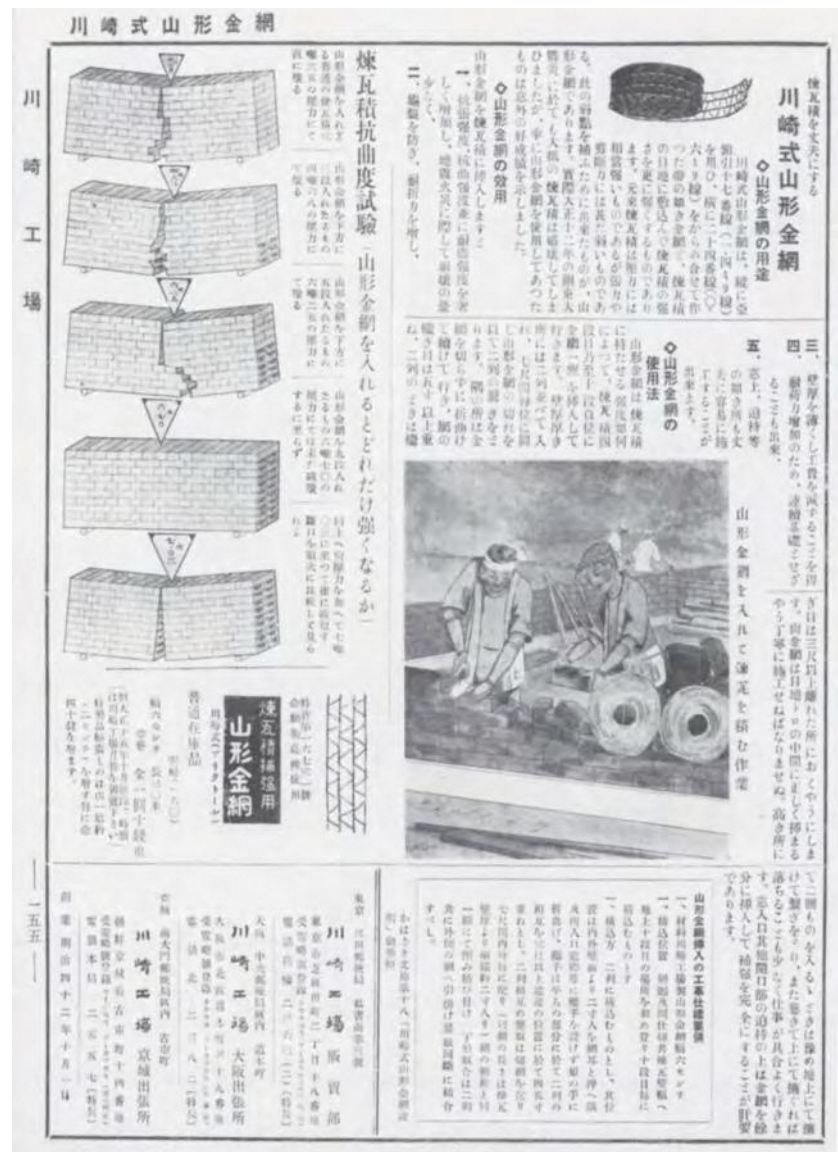


図2-3 山形金網の詳細

【参考】山口県旧県議会堂の煉瓦壁に挿入されていた山形金網
 (『重要文化財山口県旧県会議事堂保存修理工事報告書』2005)

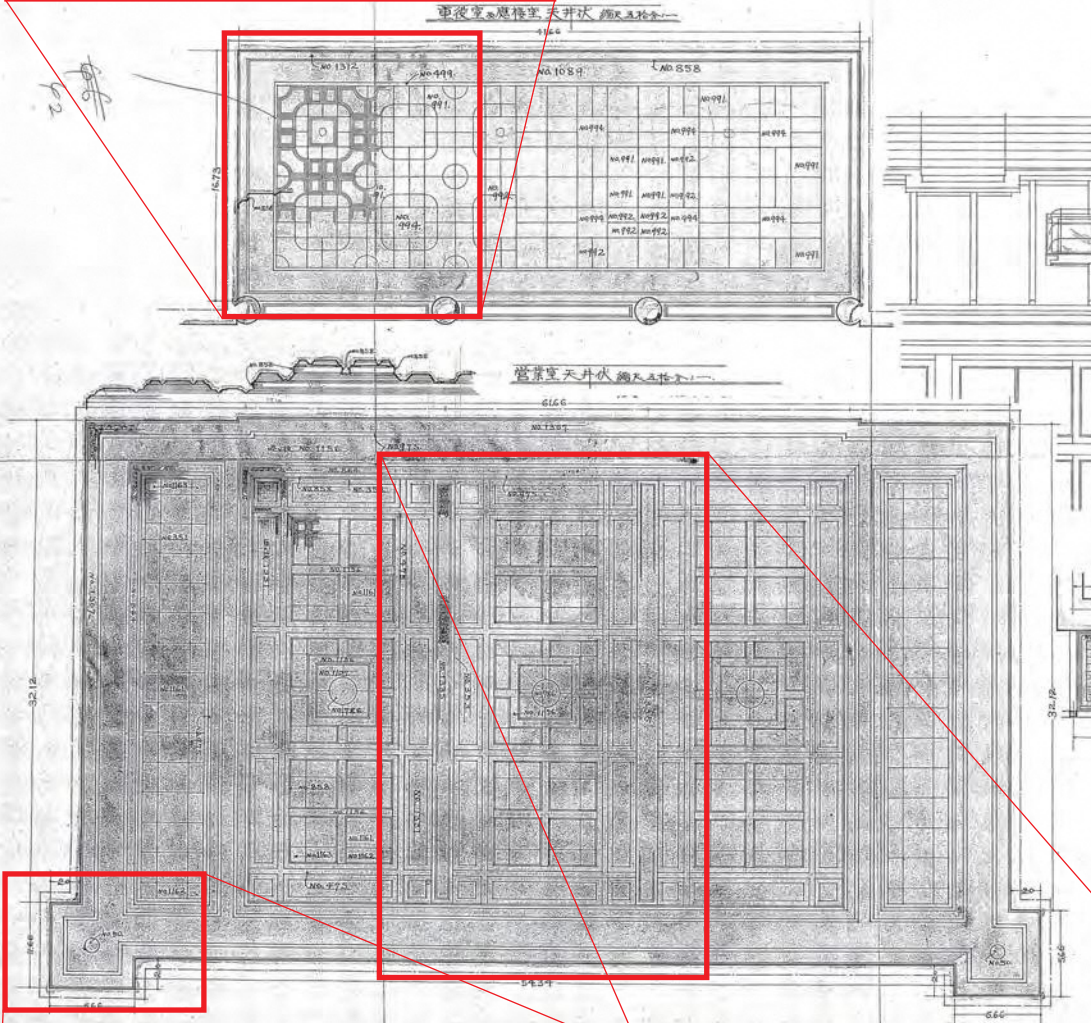


【参考】川崎式山形金網資料
(建築資料協会編『建築資料共同型録』大正 15 年)



1 階会議室天井裏に隠蔽された金属天井

新規天井材に隠蔽され
残されていた当初金属
天井（白色塗装）



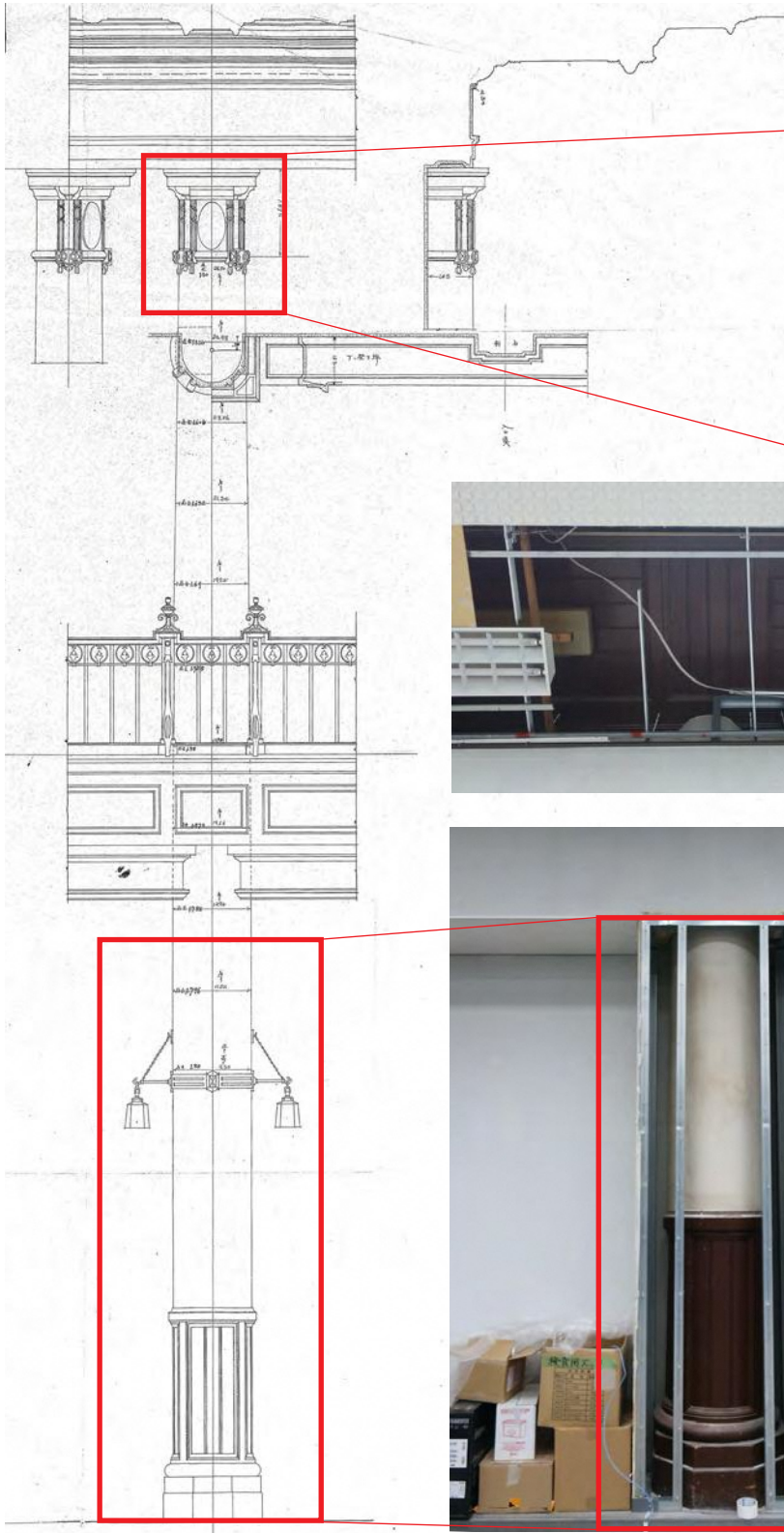
営業室天井吹抜け部の金属天井



営業室天井吹抜け部の金属天井

北棟営業室吹き抜け空間の金属天井（メタルシーリング）（清水建設所蔵）

柱頭と同じ植物
紋が階段室梁形
にも施されている



柱頭装飾：銀行を表す分銅紋の
モチーフが施されている

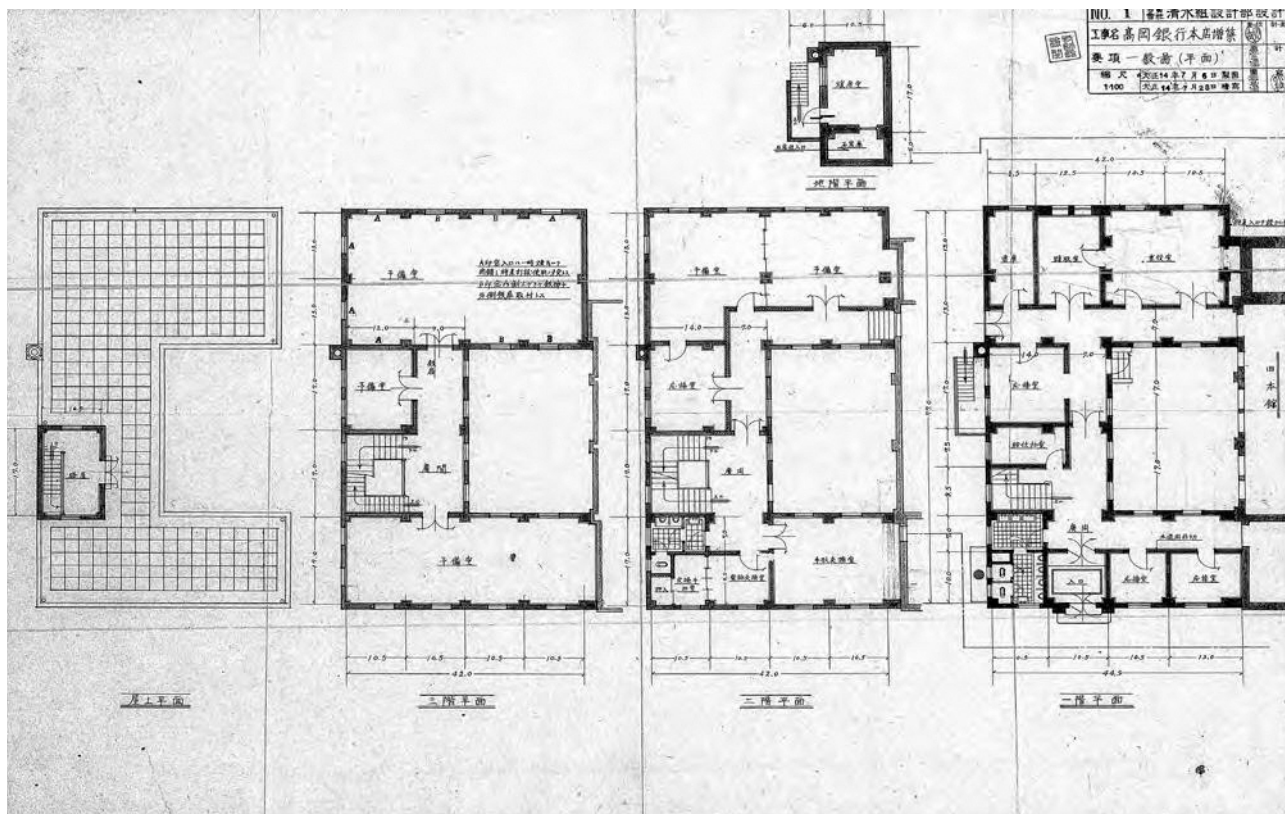


新規天井材に
隠蔽され残さ
れていた当初
回廊の見上げ

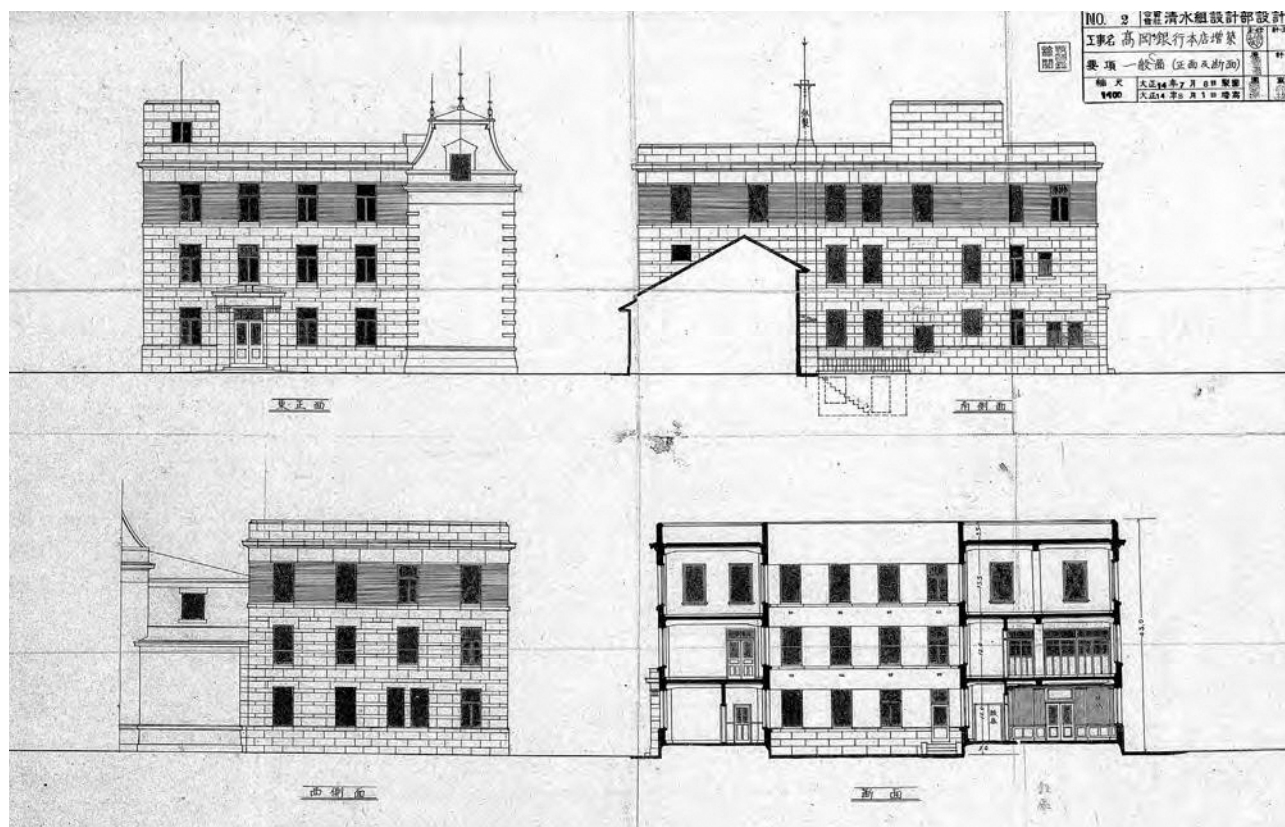


新規壁材に
隠蔽され残さ
れていた当初
の独立円柱

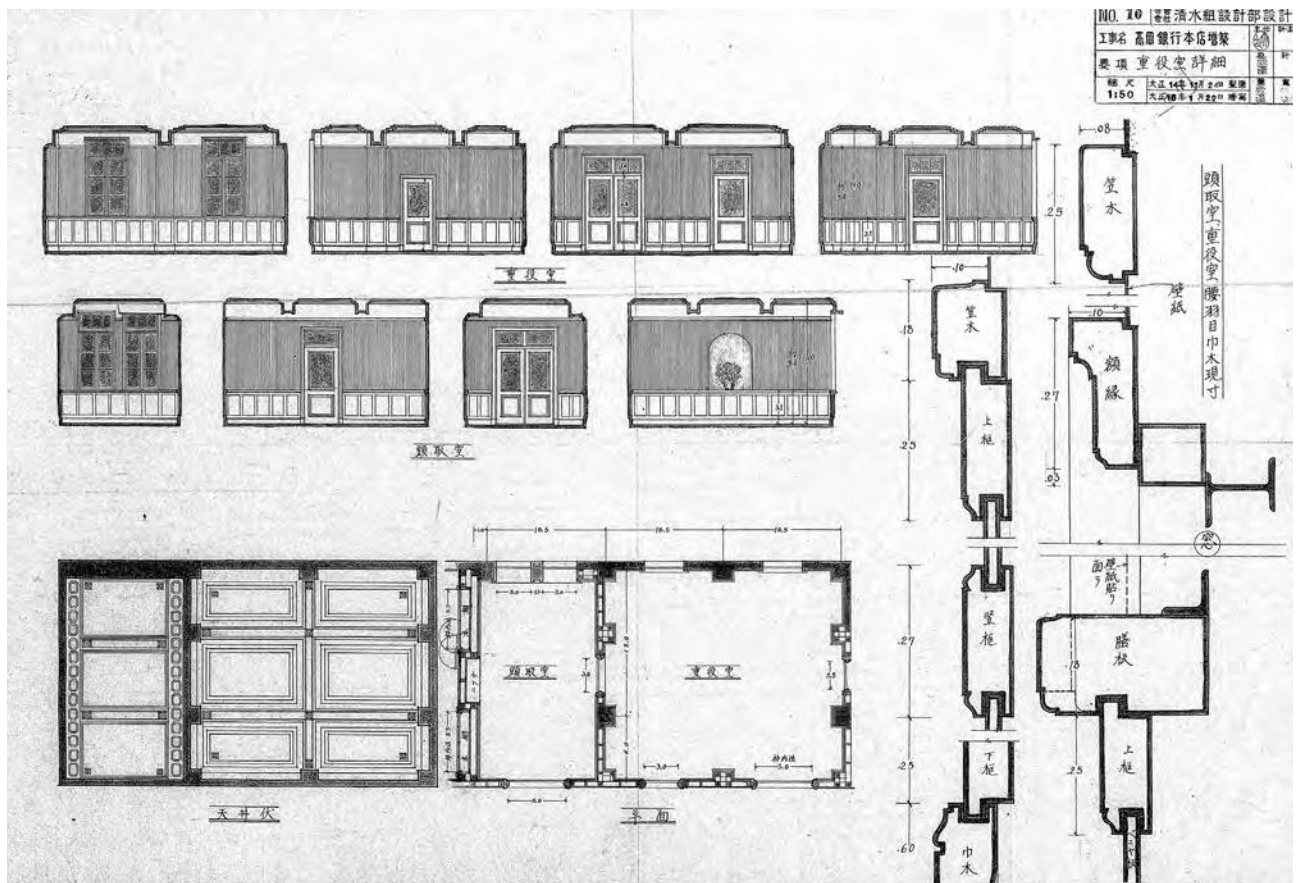
北棟営業室吹き抜け空間の通し円柱と回廊（清水建設所蔵）



南棟設計圖 平面圖（清水建設所蔵）



南棟設計圖 立面圖（清水建設所蔵）



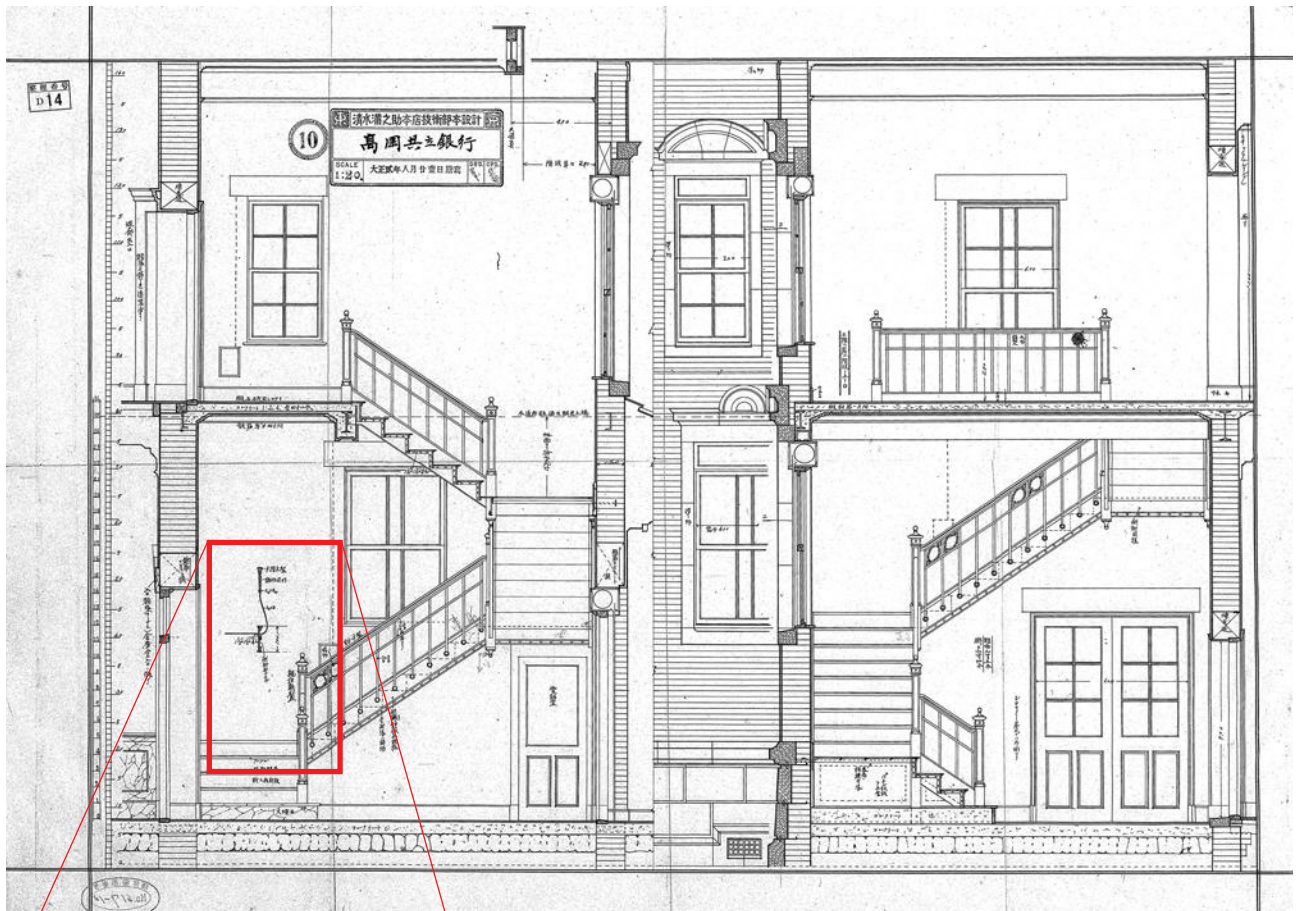
南棟設計図 重役室室内展開図（清水建設所蔵）



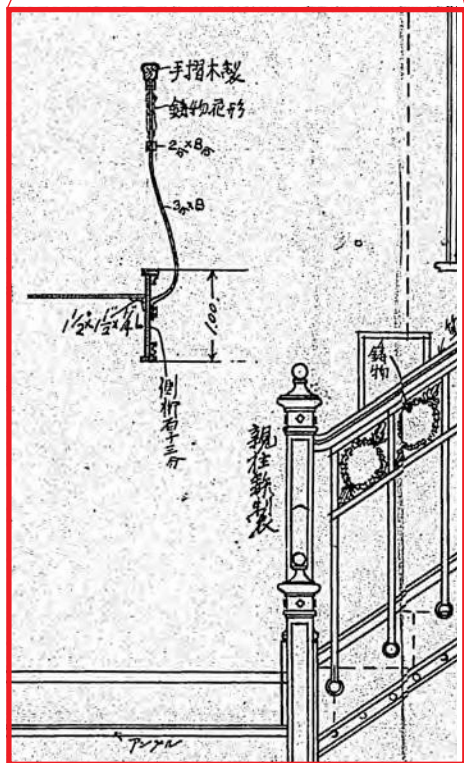
南棟旧重役室（S1-3）に残る当初天井



南棟旧重役室（S1-3）の隠蔽された当初壁面



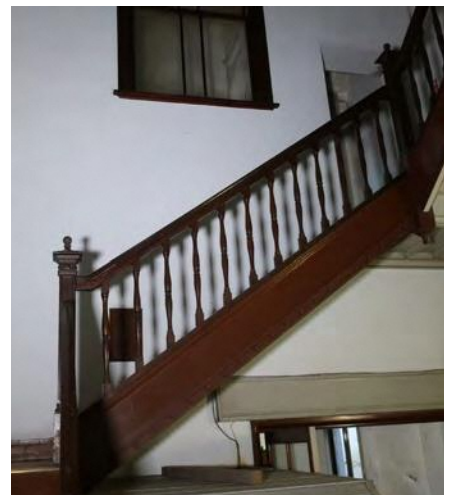
北棟階段室詳細図（清水建設所蔵）



同拡大図（清水建設所蔵）



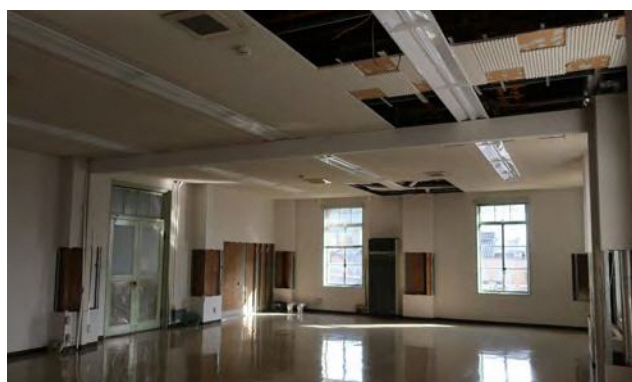
北棟3階塔屋部 残る当初手摺子の一部



木製に置き換えられた現在の北棟階段手摺子

衛 生 器 具 表					
種 別	型録番号	個 数			摘 要
		1階	2階	3階	
和風大便器	C~1	2	1	1	フラッシュ弁、鉛製トラップ付
壁型小便器	U~30	3	2	2	自動サイホン式レストーンフラッシュパイプ、スプレーター、ストレーナー共一式
壁掛小便器	U~23	2			同上
洗面器	L~92	3	1		クローム鍍金P型トラップ、1/2縦水栓珐瑯引ブラケット付
手洗器	L~126			1	同上
同上	L~57	2			1/2縦水栓 クローム鍍金P型トラップ付
作り付流し				2	給水栓、排水口金物 鉛製トラップ取付一式、器具ハ別途施設
鏡		3	1	1	1.3 x 1.8 x 0.02 六分面取飾紙止メ
化粧棚		3	1	1	4 1/2" x 20" 乳白硝子板製 クローム鍍金ブラケット付
和風大便器	C~2	1			フラッシュ弁、鉛製トラップ付

昭和 13 年に新設された衛生器具一覧（清水建設所蔵図面より）



南棟 3 階会議室（S3-1）新規材に隠蔽された旧仕上材（コルク天井、繊維壁）



同左（矢印は中古の木製廻縁で、天井が少なくとも 2 回下げられたことがわかる）

< 営繕改修工事 >		仕上表				
	床	巾 木	腰	壁	天井	備 考
風 除 室	在来撤去 塩ビタイル貼 t3				アルミスバンドル	自動扉 2重安全装置付
カウンセラーサービス ロビー	カウンター及木床組撤去部分 ノミ盛土 H650 土間コン打 t120 その他部分 既存床材撤去 塩ビタイル貼 t3		既存大理石面 クリーニング	既存面 OP 塗替	在来システム天井撤去 LGS PBT9 下地 岩綿吸音板 H=3.950 ダイロートンリブ t19	カウンター全面より替、カウンティングカウンター 応接セット(既存カウンター天板、腰撤去 永久保存 再現可能なこと) 既存開口部木製額縁 OP 塗替
待合ロビー	同上		同上	同上	同上	ソファアーベンチ
公金受付ロビー	同上		同上	同上	同上	同上、側面出入口自動ドア新設 (取付部周辺 LGS t90 PBT t2 クロス貼)
営 業 室	既存木床組共撤去 土間コン t200 打増 鋼製フリーフロアー H=600 タイルカーペット	木巾木共 OP 塗替	木部共 OP 塗替	同上	同上	既存柱型、梁型面 OP 塗替 後方壁面(天井)に「リチャール」システム収納 床点検口 4ヶ所 金庫前スクリーン、応接セット
同上後方通路	既存木床組のまま 床材撤去 コンパネ貼、タイルカーペット	新設間仕切面 ソフト巾木 H90		新間仕切壁 LGS t90 PBT t12、ジョリハット吹付	既存天井より LGS 下地新設 PBT t9 岩綿吸音板 H=2.915	床点検口 3ヶ所 食器収納棚
応 接 室(大)	同上 ※窓際旧通路部分のみ木床組 新設コンパネ、タイルカーペット	木巾木 H100 OP 塗		新旧壁面共 同上	野縁受新設 同上	改修窓面木製額縁 カーテンボックス(既製品集成材) カーテン(ダブル)、鋼製ロッカー
応 接 室(中)	同上	同上		同上	同上	照付デスクセット
応 接 室(小)	同上	同上		同上	同上	同上
後 方 廊 下	既存のまま	同上		同上	同上	同上
湯 沸 場	長尺塩ビシート貼替、既存 OP 塗替			既存のまま	既存のまま	流し台(ステンレス)クリーニング

平成 10 年「北棟」営業室内装工事仕様書（富山銀行所蔵）

赤枠内に当初カウンター大理石天板・腰が再現可能な状態で永久保存されていることが明記されている。